2017

駅を表すピクトグラム

Station pictgram

AD 20　塩原　優輔
指導教員　佐久間　善典

1.研究目的

電車は私たちの生活の中で、移動手段として欠かせないものである。その電車の駅の中には沢山のピクトグラムがあるのだが、駅の名前自体につけられたピクトグラムは無い。駅を表すピクトグラムがあったならば、より便利になる事があるのではないかと思い、それを研究目的とした。

2.調査と分析

メキシコ市の地下鉄では、駅のイメージをピクトグラム化して駅名サインに使用している例があり、メキシコに多い文盲の人や外国人観光客だけでなく、市民にも歓迎されているということが分かった。日本にも、外国人観光客は多くいるので、これを制作することに意義を感じた。

3.コンセプトの立案

このピクトグラムがあれば、漢字の読めない外国人観光客にも駅を認識してもらうことができると感じたので、観光客をターゲットとして駅のピクトグラムを制作することにした。

4.デザイン展開

駅自体のピクトグラムを作るにあたって、駅１つ１つに特徴のある路線が良いと思った。そこで今回の卒業研究では江ノ島電鉄を選んだ。沿線には観光名所が多く、観光客の訪れる場所が多いため、的確にイメージを抽出することにより、ピクトグラムを見ただけで駅を認識することができると考えた。

インターネットや書籍で、江ノ電沿線の観光スポットとしてピックアップされている場所、歴史を調べながら、15の駅のイメージを抽出していった。例えば、「長谷」なら大仏の顔、「由比ガ浜」なら花火というように、風景と物をピクトグラムとして表現していった。

小さくしても識別でき、ピクトグラムとしての品位を損なわないよう、線の太さや空白の間隔に気をつけながらイメージをピクトグラム化していった。

また、ピクトグラムの背景には江ノ電の車両の色である緑をおき、枠線には同じく車両の色である黄色を使用した。

5.完成図

6.結論

出来上がったピクトグラムをインターネット上の江ノ電の掲示板と、江ノ電周辺在住の人、合計25人に見てもらい回答をもらった。(本来は観光客を対象に検証を行いたかったが、観光シーズンではなかったので、地元住民に行った。)

鎌倉～江ノ島間のピクトグラムは、ほとんどの人に分かってもらえた。この区間は観光名所が多いため認識される可能性は高いのだが、同じ区域に２つの駅があったりするため、どちらの駅だか分からないピクトグラムが出てしまった。藤沢～鵠沼間はピンとこないという人が多かった。実際この区間は住宅地ということで、観光的なイメージはないため、結果的に分かりにくい物となってしまった。

これを実際観光客に見せるとなると、もっと認識度が低くなるのではと感じた。人がそれぞれ感じている駅のイメージが必ずしも同じではないので、認識度をより高めるには、もっと多くの人に調査をしなければならないと思った。このアイディア自体は好印象を受けていたので、卒研が終わっても認識度を上げるために洗練させていこうと思えた。

7.参考文献

「江ノ電百年物語」(JTB)
著者：湘南倶楽部